

ヤンマーグループのCSR

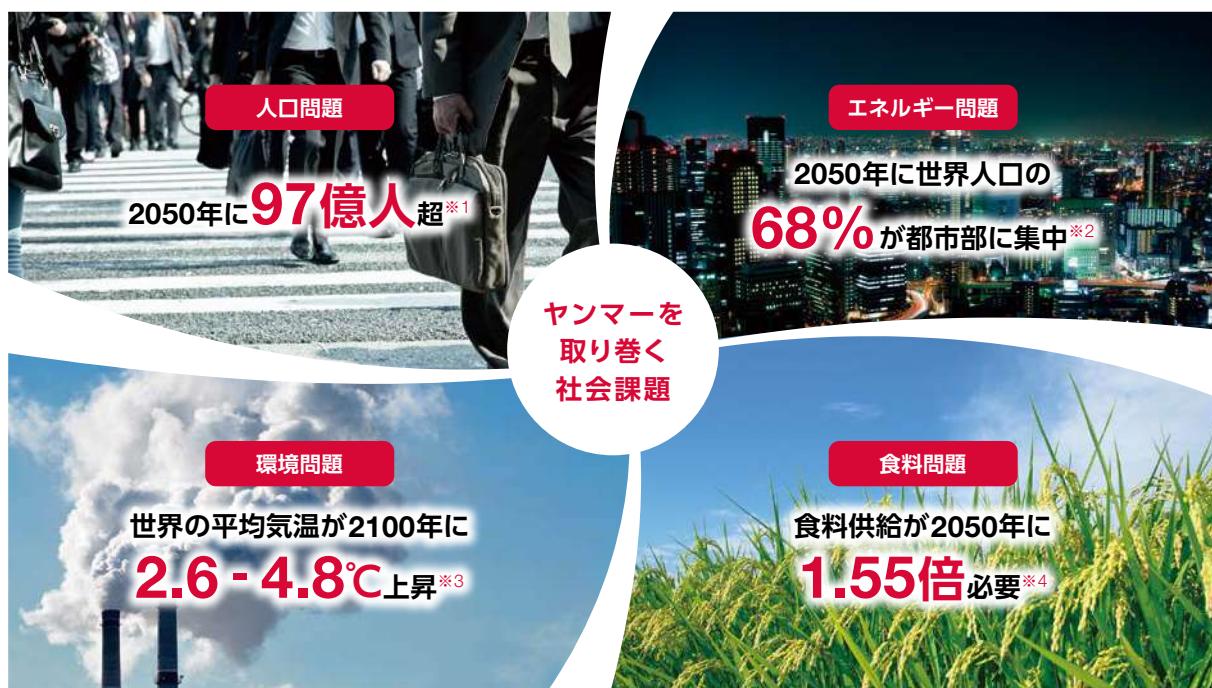
ミッションステートメントの実践を通して社会課題を解決し、“A SUSTAINABLE FUTURE”の実現とSDGsの達成に貢献していきます。

ヤンマーグループは、ミッションステートメントで掲げる、生命の根幹を担う「食料生産」と「エネルギー変換」の分野で、世界最先端のテクノロジーを通じて、お客様の課題解決に取り組んでいます。さまざまなステークホルダーとの対話や協働を行いながら、ミッションステートメントの実践を通して、私たちはブランドステートメント「A SUSTAINABLE FUTURE」—テクノロジーで、新しい豊かさへ。—」が掲げる4つの未来像を実現していきます。

私たちを取り巻く社会課題は、新興国を中心とした人口増加

や経済発展により、エネルギー需要の増加や食料不足問題、CO₂排出量の増加による気候変動問題など多岐にわたります。ヤンマーグループは、“最大の豊かさを、最少の資源で実現する”テクノロジーカンパニーとして、水素エネルギー活用の検討や、新たな“食の豊かさ”の創出などに努めています。

また、こうした私たちの事業の方向性は、2015年に採択されたSDGs^{※1}の目標およびターゲットの内容と共通する点が多く、“A SUSTAINABLE FUTURE”への取り組みを進めることで、関連するSDGs目標の達成にも貢献していきます。



※1 United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2017). World Population Prospects: The 2017 Revision. (2017)

※2 United Nations, 2018 Revision of World Urbanization Prospects. (2018)

※3 IPCC Fifth Assessment Report WGI SPM (2014) ※4 農林水産省「2050年における世界の食料需給見通し」(2012)

※持続可能な開発目標 (SDGs) について

「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」は、2015年9月に国連本部で採択された「私たちの世界を変革する 持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた2030年までに達成すべき目標です。

途上国を対象としていた「ミレニアム開発目標 (MDGs)」から、先進国も含めた世界全体の共通目標として17の目標と169のターゲットで構成され、各国における民間企業のイノベーション創出や技術による貢献に大きな期待が寄せられています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「A SUSTAINABLE FUTURE」が掲げる4つの未来像

VISION 01

省エネルギーな暮らしを実現する社会



エネルギーの可能性を拡大。安価・安全な動力、電力、熱を、いつでも必要なとき必要なだけムダなく使えること。

関連する主なSDGs目標



VISION 02

安心して仕事・生活ができる社会



厳しい労働を、快適な労働へ。誰もが気持ちよく働いて安定した収入を得ると同時に、自然と共に心豊かに暮らすこと。

関連する主なSDGs目標



VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会



おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。あらゆる人が、もっと健やかに生活できること。

関連する主なSDGs目標



VISION 04

ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会



仕事も余暇も心ゆくまでぞんぶんに愉しめる毎日を実現。あらゆる人の生活のクオリティを高めていくこと。

関連する主なSDGs目標



事業を通じた貢献

事業活動 (ソリューション提供)

次世代育成活動



商品開発

ものづくり

サービス

文化醸成活動



お客様



従業員



ビジネス
パートナー



地域社会



環境

お客様の課題を解決する安全で高品質な商品・サービスを迅速に開発・提供し、お客様に信頼いただけるよう努めています。

従業員一人ひとりの個性と多様性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりと、グローバル人財の育成を進めています。

国内外の販売店・特約店、サプライヤーとのコミュニケーションを深め、良好なパートナーシップを構築しています。

「地域社会と共に歩み、共に生きる」ため、地域の課題解決に向け、住民と一緒にさまざまな活動に取り組んでいます。

持続可能な社会の実現に向け、地球温暖化防止や、資源の有効活用、環境負荷物質の低減、生物多様性に取り組んでいます。

VISION 01

4つの
未来像省エネルギーな暮らしを
実現する社会関連する主な
SDGs目標

多様なエネルギー資源の利用と低炭素な社会実現に向け
**水素燃料電池システムの開発と普及を通じて
 産業分野における水素エネルギー活用と発展に寄与**

ヤンマーを取り巻く社会課題

エネルギー
問題

環境問題

日本では、国内で供給する一次エネルギーのほとんどを中東地域などの化石燃料に依存しています。石炭、石油に加え、東日本大震災以降は火力発電所などに使われるLNG（液化天然ガス）の消費が増えたことにより、化石燃料依存度は一次エネルギー全体の89%を占めています。さらに、一次エネルギーのうち日本国内のエネルギー自給率はわずか8.3%です。

また、深刻化する地球温暖化問題の根本的な解決に向け、持続可能な開発目標（SDGs）やパリ協定など国際的な枠組みのもと、世界各国が温室効果ガスの排出削減目標を定め、取り組みを加速させています。日本も2030年度目標として、2013年度比で26%削減を掲げています。

ヤンマーの提供できる価値

- ・水素エネルギーの利活用によるCO₂排出量の削減、再生可能エネルギーの普及拡大

エネルギー安全保障の確保と温室効果ガス排出削減の課題を同時並行で解決していくため、新たなエネルギー源の一つとして期待されているのが水素です。水素は再生可能エネルギーなどのさまざまなエネルギー源からつくることが可能であり、利用段階でCO₂を排出しないという環境特性を有しています。また、エネルギーを貯め、運び、利用するエネルギーキャリアとしての特性を持っています。

ヤンマーは、水素エネルギーの活用に向けた研究開発を推進しており、まずは小型船舶への燃料電池の展開に貢献するため、国や他の事業者と共に安全ガイドライン策定を目的とした実証試験を行っています。

エネルギー安全保障

日本のエネルギー自給率※1

2016年 **8.3%**

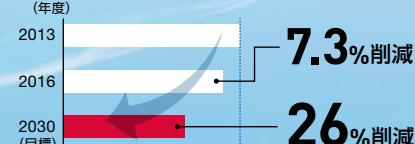
多様なエネルギー源から製造可能

水素
エネルギー

ヤンマーの取り組み

船舶への燃料電池の展開

地球温暖化対策

日本の温室効果ガス排出量（GHG）削減
(2013年度比)※2再生可能エネルギー由来の水素を使用することで
製造から使用までのCO₂フリーを実現

※1 経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー2017年度版」(2017年)

※2 環境省「2016年度(平成28年度) 温室効果ガス排出量(確報値)」(2018年)

60kW級の水素燃料電池システムを搭載した 小型船舶の実船試験で安全性を確認

モビリティのなかでも船舶は低炭素化が難しい分野とされており、燃料電池の活用を含めた電動化等の推進が、CO₂排出削減に有効だと考えられています。

ヤンマーは、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所（海技研）、および一般財団法人 日本船舶技術研究協会とコンソーシアムを組み、国土交通省より受注した「水素燃料電池船の安全ガイドライン策定のための調査検討事業」の一環として、実船試験を2018年2～3月にかけて実施しました。

本事業は、2015年度から3年計画で取り組んできたもので、最終年度となる2017年度は、燃料電池の塩害対策や動揺試験などのこれまでの基礎試験で得られた成果に基づき、実船試験を行いました。

実船試験は、当社と海技研が主体となり、当社製60kW級船用燃料電池システムおよび渦潮電機（株）製のリチウムイオン電池システムを実験船に搭載して実施しました。その結果、



実船試験の様子

燃料電池システムや、燃料電池船に搭載する蓄電池システムに求められる安全要件の妥当性を確認することができ、試験結果は「水素燃料電池船の安全ガイドライン」の検討に貢献するため、国土交通省に提出しました。

当社は、将来の水素燃料電池船の実用化に向け、引き続き船用燃料電池システムの高出力化やコンパクト化を目指した研究と実証試験を実施していきます。

水素燃料電池船の潜在的な市場の一つとして、都市部の観光船や遊覧船などの沿岸航行小型船舶が想定されており、まずは、こうした市場への導入可能性を検討し、費用対効果の大きいものから実用化を目指していきます。



60kW級船用燃料電池システム



ヤンマーの社員が各種情報を監視

Voice

社員の声

船舶分野の低炭素化のために 燃料電池という新たな技術で取り組んでいきます

船舶分野も含めて、ヤンマーの事業領域の環境規制は今後ますます厳しくなってきますが、この環境変化を脅威ととらえるのではなく、「A SUSTAINABLE FUTURE」を実現する絶好のチャンスととらえています。船舶分野における水素利活用には、法整備やインフラ整備、燃料電池の耐久性や信頼性等の技術面、コスト面の課題がありますが、燃料電池という新たな技術でヤンマーが業界を牽引すべく、メンバー全員が一丸となって奮闘しています。今後も燃料電池船の実用化に向けて、継続的に技術開発・実証を行うとともに、国家プロジェクトなどの枠組みを活用してルールづくり、仲間作り、インフラづくりなどの取り組みに貢献していきます。



ヤンマー（株）
中央研究所
パワートレイン研究部
新パワーソースグループ
丸山 剛広（上段左）

ヤンマー（株）
エンジン事業本部
特機エンジン統括部
開発部
システム開発部
行實 文明（上段右）
灰庭 照繕（下段右）
平岩 琢也（下段左）

VISION 02

4つの
未来像安心して
仕事・生活ができる社会関連する主な
SDGs目標

2035年のリノベーション時代到来に向け
**安全性と効率性を追求した次世代コンセプト建機で
安心して住み続けられるまちづくりに貢献**

ヤンマーを取り巻く社会課題



人口問題

社会
インフラ問題

2035年に向け、国内・海外ともにリノベーション需要の拡大が予測されています。日本では、1980年代後半から90年代前半に建てられた住宅が、2035年には老朽化によるリノベーション需要が増加するとみられています。また同じ頃に、日本の労働人口は現在よりも約16%減少※することとともに労働力不足が懸念されており、手作業で行っている内装解体や施工などの作業の機械化が求められています。

一方、欧米では、中古住宅の流通シェアが日本より大きく、

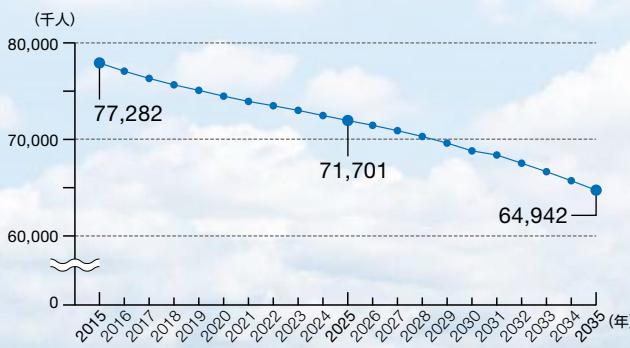
ヤンマーの提供できる価値

- 建設作業の機械化・自動化による労働者不足の解消、危険作業の回避

内装工事における作業効率化の需要が高いとされています。さらに、東南アジアは各国で人口増加が見込まれています。住宅建設およびリノベーション需要も順次増えてくると考えられ、これらに対応するため作業の機械化は必要不可欠になってしまいます。

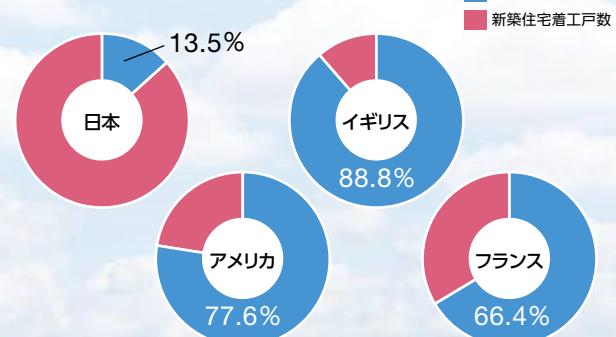
ヤンマーグループは、こうしたリノベーション時代の到来に向け、次世代コンセプト建機「Y-RENOVATOR」を開発し、実用化に向けた取り組みを進めていきます。

●生産年齢人口（15～64歳）の2035年までの推計



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年版）
出生中位（死亡中位）推計（各年10月1日現在の総人口）（2017年）」

●既存住宅流通シェアの国際比較



※日本：総務省「住宅・土地統計調査（平成20年）」、国土交通省「住宅着工統計（平成20年）」
アメリカ：Statistical Abstract of the U.S. 2006
イギリス：コミュニティ・地方政府省ホームページ（<http://www.communities.gov.uk/>）
（既存住宅流通戸数は、イングランド及びウェールズのみ）
フランス：運輸・設備・観光・海洋省ホームページ（<http://www.equipment.gouv.fr/>）

ヤンマーの取り組み

次世代コンセプト建機の開発

身体的に負担が大きい屋内作業を機械化・自動化で支援する 次世代コンセプト建機「Y-RENOVATOR」

次世代コンセプト建機「Y-RENOVATOR」は、これまで手作業で行ってきた建物の施工、内装解体などの屋内作業改革に着目し、新たな市場での機械化・自動化を見据え、作業負担の低減、作業効率の向上、廃材の後処理の簡易化などに貢献します。

「Y-RENOVATOR」は、①エレベーターに搭載可能なサイズであること、②アタッチメント交換による汎用性があること、③自動運転が可能であること、の3つの共通コンセプトに基づき「planner機」「sub機」の2機種を開発しました。

「planner機」は天井や壁の張り替え作業、繊細な作業が行えるとともに、「sub機」の指揮も担います。また、「sub機」は床剥がし作業、資材や廃材の搬送、材料別の分別などを担当します。

planner機

planner機は最適な作業手順の立案や、施工現場の内部構造と完成予想図の表示が可能です。planner機の手は4本指のマニピュレータとなり、パイプなどをつかむことが可能です。操作部はボール形状で、オペレーターがボールを握るとマニピュレータが閉じ、放すと開く動きをします。



sub機

sub機は床剥がしのアタッチメントを装着し簡単に作業可能です。資源活用を念頭に置き、廃材は自動で仕分ける機能とすることで分別作業負担軽減にも配慮した設計にしています。また、両機共に足回りは、全方向に移動可能な形状で、ねじりなどで床を傷つけないようにするためボール形状としており、昆虫と同じ六本足にしています。



Voice

社員の声

解析技術の向上やAIの活用を進め 「Y-RENOVATOR」の実用化に貢献していきます

ヤンマー建機における将来の姿や現在の強みなどを考える社内アンケートをきっかけに、「Y-RENOVATOR」のプロジェクトメンバー5名が選出されました。これまでにない商品を一からつくりたいというメンバーの強い思いがある一方、機能面に現実性を持たせることなども踏まえながら製作しました。当社としては新しく挑戦する市場であり、課題は多いですが、施工対象物の内部構造解析や、AIによる施工手順の提案など、実用化に向けた取り組みを進めています。



ヤンマー建機(株)
開発部試験グループ

福田 昌弘(右)

床材を剥がして、取り込み、
分別する機械の構造、機能などを担当。

稻積 洋人(左)

人口推移や世界需要動向などの調査、企画、提案を担当。

VISION 03

4つの
未来像

食の恵みを安心して 享受できる社会



関連する主な
SDGs目標

世界的な食料の不均衡が問題となるなかで
ハード分野で培ってきた技術やノウハウを
ソフト事業に活用し、新しい“食の豊かさ”を創出

ヤンマーを取り巻く社会課題



人口問題



食料問題

ヤンマーは、食に関するさまざまなお社会課題を踏まえ、これまで得意としてきた農業機械の開発だけに留まらず、そこで培った技術やノウハウを活用し、食に関するすべての領域においてハード分野からソフト分野へ、生産者から消費者へとビジネスフィールドを広げ、新しい“食の豊かさ”的創出に努めています。

ヤンマーの提供できる価値

- ・米の新たな需要創出による生産者の経営支援
- ・生産者と消費者をつなぐことによる新しい豊かさの提案

バイオイノベーションセンター倉敷ラボでの研究開発や、他の事業者との共同開発などを進めるとともに、付加価値の高い食品の開発、販売を通じて生産者の支援に取り組んでいます。また、生産者と消費者をつなぐためのさまざまな場を提供し、新たな食文化を提案しています。

トラクターなど農業機械

ヤンマーの
得意分野

ハード



新しい
提供価値

ソフト

安心・安全な食品の提供／営農・栽培支援

グルテンフリーの
新食品素材
「ライスジュレ」



「プレミアムマルシェ」



「酒米ソリューション」
「オリジナル・
ドレッシングソース」



P.19へ

P.20へ

P.21へ

バイオ
イノベーションセンター
倉敷ラボ



新食品素材「ライスジュレ」で豊かな食生活の提案と お米の用途拡大を実現し生産者を支援



昨今、小麦アレルギーの人でも安心して食べることができ
るグルテンフリー※1食品や、添加物を使用しない安全な食への
関心が高まっています。一方、食文化の変化により国内に
おける米の需要は年々減少しており、米の新たな用途拡大を
通じた生産者の経営支援が課題となっています。

このような中、ヤンマーグループは新食品素材「米ゲル」※2
に着目し、世界で初めて※3「米ゲル」の連続大量生産を実現
しました。パンやお菓子、麺類など、さまざまな食品の原料
として、無添加・グルテンフリーを実現することができる全く
新しい食品素材として期待され、消費者にも親しみを感じてい
ただくため「Rice gelée (ライスジュレ)」と命名しました。

「ライスジュレ」は、ライステクノロジーかわち(株)が製造し、
ヤンマーのグループ会社であるヤンマーアグリノベーション
(株)を通じて販売するとともに、「ライスジュレ」を使った加工
食品の開発も行い、ウェブサイト「premiummarche.com」等
で販売しています。さらに、お好み焼専門店「千房」を展開する
千房ホールディングス(株)や、「白い恋人」で知られる石屋
製菓(株)などの事業者と共同で新しい食品の開発、販売にも

取り組んでいます。

また、「ライスジュレ」に適している高アミロース米は低コスト
栽培が可能な多収量米です。ヤンマーグループは、高アミ
ロース米の契約農家に対し栽培指導から品質管理までを支援
することで生産者の経営を支援していきます。

※1「グルテン」を摂取しない食事方法や食品のこと。「グルテン」とは、穀類特有の網
目構造を持ったタンパク質であり、小麦粉と水をこねることで、主な成分である「グル
アミン」「グルテニン」が絡み合い、「グルテン」が形成される。

※2 国立研究開発法人農研機構食品総合研究所の研究により開発された新食品素材
で、加水した米を炊飯・高速せん断攪拌することで、ゲル状に加工したもの。
(国立研究開発法人農研機構食品総合研究所:特許第5840904号、第6010006号実施許諾済)

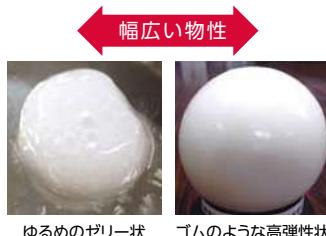
※3 米のダイレクトGEL転換技術を用いた連続大量生産において。2017年11月現在、
当社調べ。



「ライスジュレ」の3つの特徴

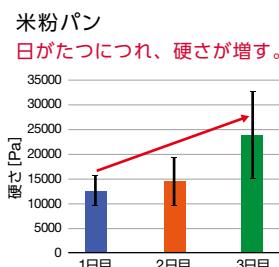
1 味や硬さ、食感は自由自在

加水量の調整により、物
性を制御できるため、や
わらかいゼリー状から弾性
の高いゴム状のものまで
提供可能で、多様な加工
食品に応用できます。



2 保水性が高く、日持ちする

時間が経っても硬くなりにくく、保水性が高いため離水しにくいこと
が大きな特徴です。もっちり感が持続します。



3 多様な食品に応用可能

新しい米加工技術により、高アミロース米を米粒のままゲル状にする
ことで、二次加工しやすく、多様な食品への応用が可能となります。



VISION 03 食の恵みを安心して享受できる社会

生産者と消費者をつなぐ食プロジェクト 「プレミアムマルシェ」



「プレミアムマルシェ」は、安心・安全でおいしい食品を求める消費者と、栽培方法や生産物にこだわりを持つ生産者をつなぐ食プロジェクトです。新しい食体験を通じた今までにないライフスタイルや食文化を消費者に提案するとともに、生産者と一緒に新しい食ソリューションビジネスの創出に取り組んでいます。私たちは、「プレミアムマルシェ」を通じて、日本の農業・漁業をはじめとする一次産業を支え、地方活性化の貢献の一助となることを目指しています。



消費者

- おいしい食を楽しむ
- 価値のより高い商品・サービスの利用
- 新しいライフスタイルや食文化との出会い

Premium Marché

YANMAR presents

- 生産者と消費者との接点強化による知見の蓄積
- 新しい食ソリューションビジネスの創出
- 新しいライフスタイルや食文化の創造

ウェブ(EC)サイト Premiummarche.com

こだわりのお米をはじめ、ヤンマーオリジナル食品である「ドレッシングソース」や「ライスジュレ」などが購入できる通販サイトです。食材や生産者にまつわるストーリーの紹介、安心・安全な食品の提案、レシピの公開などを通じ、新たな食文化の提案に取り組んでいます。



Premium Marché OSAKA (プレマルオーサカ)

ヤンマー本社ビル最上階にある社員食堂「プレマルオーサカ」を週末限定で一般開放し、生産者の思いが詰まったこだわりの食材を一汁三菜プレートとして提供しています。「ライスジュレ」や「オリジナルドレッシングソース」などを使ったメニューも提供しており、ヤンマーの食への思いを感じ取っていただけます。



Premium Marché Shop (プレマルショップ)

ヤンマー本社ビル1階で毎月第3土・日に開催していた青空市場は、2018年7月からプレマルオーサカ内にて営業しています。レストランでおいしく食べていたいたい、その週のこだわり食材をすぐその場で買えるというコンセプトで展開しており、特にお客様からはヤンマーオリジナルの商品が好評です。





生産者

- 消費者にとって価値のより高い商品の提供
- 販路の確保・拡大
- 新商品の開発
- 地域・産業の活性化

取り組み事例 - ①

ヤンマー独自の営農・栽培支援を活用した 酒米ソリューションで農家の安定した経営を支援

ヤンマーは、日本酒メーカーの沢の鶴（株）と共に、独自の酒米を使った純米大吟醸酒「X01」を開発、沢の鶴（株）にて製造販売しています。山田錦に代わる新しい酒米を、当社の「バイオイノベーションセンター倉敷ラボ」と名古屋大学とで研究開発し、日本酒の需要に応じた酒米の生産を契約農家と共に実現しました。

品種・面積・価格条件を播種前契約することで農家の安定経営を支えるとともに、日本酒メーカーには安定的な仕入れを確立。事前に販路も確保することで売れ残りなどの課題も解消します。また、契約農家には、主食米から酒米への生産転換も提案することで、水田を無駄なく活用することができ、所得向上にもつなげています。



純米大吟醸酒「X01」

取り組み事例 - ②

ヤンマーのグループ会社で育てた野菜を ドレッシングソースにして販売

当社が長年関わってきた農業分野の知恵や経験を生かし、ヤンマーのグループ会社で育てた野菜を「ドレッシングソース」にして販売しています。オニオンドレッシングソースの玉ねぎは、滋賀県栗東市にあるヤンマーシンビオシス（株）のヤンマー畑で栽培しています。ここでは、ヤンマーの特例子会社として、障がいのある人が元気に働いています。

また、トマトドレッシングやストロベリーソースに使っているトマトといちごは、岡山県倉敷市で生産したものを使っています。空調制御された特別な温室内で自動栽培装置などを使って栽培しています。ここでは、気候や天候に左右されず、おいしい作物を年中安定して収穫することを目指しています。



プレマルショップやECで販売されているオリジナルのドレッシングソース

Voice

社員の声

食の恵みで新しい豊かさを実現します

「プレミアムマルシェ」は、飲食や物販などの事業を通じて、おいしいものを食べたい消費者に、より深く知る・実際に触れる機会を提供し、より豊かな食を体験していただきたい、また、いろいろな課題を抱える生産者に対しては、売れる商品づくり、販路の拡大、後継者育成支援などを通じて、一次産業を「生産者がもうかる産業へ」変えていく一助となりたい、と考えています。

ヤンマーがお客様に提供する価値は何か、プレミアムマルシェ事業に取り組む意義は何か、メンバー全員が常に考えながら、強い使命感とワクワク感をもって頑張っています。



ヤンマー（株）
社長室
プレミアムマルシェグループ
課長

三木 依子

VISION 04

4つの
未来像

ワクワクできる 心豊かな体験に満ちた社会

関連する主な
SDGs目標



商品などのモノよりも体験などのコトの提供が求められるなかで
従来のビジネスモデルにとらわれることなく
驚きや感動に満ちた価値の提供を追求

ヤンマーは、「A SUSTAINABLE FUTURE」が掲げる未来像の一つである「ワクワクできる心豊かな体験に満ちた社会」の実現を目指しています。仕事も余暇も心ゆくまで存分に愉しみ、生活のクオリティーを高めていくための一つの方向性として、マリンレジャーを提案しています。

釣り、クルージング、マリンスポーツ、スキューバダイビングなどさまざまなアクティビティをお客様に楽しんでいただくため、当社はプレジャーボート、フィッシングボートやマリンエンジンなどの開発、販売を通じて、驚きや感動に満ちた価値の提供を追求しています。

また、より多くの人にマリンレジャーに親しむ機会を増やしてもらうため、ボートシェアリングサービス事業への参画や、事業活動の枠を超えた「文化醸成活動」としてヨットレースなどのマリンスポーツ支援にも取り組んでいます。

文化醸成活動 詳しくはP.24-25



マリンスポーツなどの支援

驚きや感動に満ちた価値の提供



プレジャーボート等の開発



マリンプレジャーの楽しみを拡げるため ボートシェアリングサービス最大手のGetMyBoat社へ出資

ヤンマーは、世界184カ国でプレジャーボートおよびマリンプレジャーのシェアリングサービスを提供するGetMyBoat社（米国・シリコンバレー）に出資しました。同社が運営するウェブサイトには約11万艇のボートが登録されており、レンター（船の借り手）は、ボートを買う費用や維持費用を考えることなく、世界中のボートが使用できます。

また、ボートのオーナーは、同社が提供しているプラットフォームにより、世界中の多数のレンターにアクセスすることができます。一般的に、ボートは年間8%の時間しか使用されていませんが、この不稼働時間を利用して貸し出すことにより、オーナーはボートを保有するコストを大幅に下げ、より

気軽にボートを所有できます。GetMyBoatのサービスは、より多くの方々がオンデマンドで豊かなマリンライフを享受できる世界を目指しています。これは、驚きや感動に満ちた価値を提供したいというヤンマーの価値観を体現しているものです。

GetMyBoatのサービスにより、ミレニアム世代などへマリンライフへの入り口となる体験を提供し、マリンプレジャー人口の裾野を広げ、ボート人口の増大につなげていきたいと考えています。また、GetMyBoatに蓄積される市場情報を生かし、それを学ぶことで、自社のプレジャーボート製品の開発や新サービスの展開を加速させたいと考えています。



184カ国 約11万艇

●GetMyBoatによる体験イメージ



Voice

パートナーからの声

プレジャーボートを通じて世界中の人に豊かな人生を提供したい

GetMyBoatは、株主およびパートナーとしてヤンマーを迎えたことを大変嬉しく思っています。私たちは、プレジャーボートを楽しむ機会を、世界の誰にでも簡単に手に届くものにしたいと考えています。

そして、有意義かつ喜びのある体験により人生を豊かにすることを目指しています。企業口であるイルカは、遊び心と、水辺で友達や家族と共に過ごす楽しみそのものを体現しています。マイアミのスーパーヨット、グレートバリアリーフでのダイビングから日本での魚釣りまで、GetMyBoatが提供できる思い出のパラエティーは無限大です。

また、私たちはエコツーリズムを支援しています。より多くの人が海や湖水の恵みに感謝するとき、環境意識が一層高まり、さらにサステナビリティが重視されるようになると考えています。



GetMyBoat社
CEO

Sascha Mornell氏